

## みえ福祉第三者評価結果

### ① 第三者評価機関名

株式会社経営志援

### ② 施設・事業所情報

名称：桔梗が丘保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：園長 堀 秀子	定員（利用人数）：180（185）名	
所在地：三重県名張市桔梗が丘3番町4街区411番地2		
TEL：0595-65-0827	ホームページ： <a href="https://kikyogaoka.komoharahoiku.net/">https://kikyogaoka.komoharahoiku.net/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：名張市より移管日 平成23年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人こもはら福祉会		
職員数	常勤職員： 21名	非常勤職員： 35名
専門職員	保育士： 44名	看護師： 2名
	栄養士： 1名	調理師： 6名
	衛生管理者（兼務）： 2名	
施設・設備 の概要	保育室：10室	教材室・屋上プール
	事務室・給食室	トイレ・沐浴室・医務室・倉庫

### ③ 理念・基本方針

#### 保育理念

みんなで 創ろう つながろう 人の輪 心の和 子どもの笑顔がみたいから

#### 保育方針

- ・愛される喜びと安心を感じられる優しく温かい保育
- ・「遊んで育つ」発達援助と健康な身体づくりに努め、心も身体も健やかに育む豊かな保育
- ・人とのかかわりの中で学び合い共に育ち合える保育

### ④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ①少子化・核家族化に加えコロナ禍が続き、人とのかかわりが希薄化する中で、異年齢交流や地域交流、世代間交流を積極的に取り入れ、人と繋がる温かさから「愛される喜び」や「思いやりの心」「生きる力」を育てている。
- ②保護者が子どもと向き合う時間を少しでも多く取れるよう、「手ぶら登園」を導入し、子育て負担の軽減に繋げている。
- ③ICTを活用した情報共有や保育内容のリアルタイム発信により、保護者の安心に繋がるとともに、保育士が子どもとかわる時間を大切にしている。

④職員が互いに相談や発言ができ、心にゆとりややりがいを感じられる働きやすい職場づくりを目指している。

⑤小1 プロブレムへの現状から、接続期の大切さを小学校に積極的に伝え、理解と協力のもと、小学校へスムーズに移行できるよう早期から取り組んでいる。

#### ⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年 9月 1日（契約日） ～ 令和6年 3月 8日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	3 回（平成 30 年度）

#### ⑥ 総評

◇特に評価の高い点

##### 【保育の質の向上に向けた組織的な取組】

毎年の自己評価や5年ごとの第三者評価の実施、行事アンケートや目標設定とその評価・見直し等、保育の質の向上に向け積極的に取り組んでいる。評価結果やそこからの課題を可視化し、職員会議等で周知のほか、研修委員会による研修計画の策定と実施により改善に繋げている。前回の第三者評価結果の課題である職員への周知や参画については、職員をグループ化してリーダーから伝達する、会議前には事前に各グループが話し合い意見を出すことで「自分たちが作っている」という意識を持てるようにするなど、仕組みを構築した点は組織的な取組として素晴らしい。

##### 【働きやすい職場づくりに向けた取組】

法人として働きやすい職場づくりが行われている。有給休暇は、リフレッシュ休暇や有給休暇 60%（契約職員 100%）取得を目指し、目標以上の取得を実現させている。また、子育てや介護との両立、副業の積極的許可等、職員の意向に応じた取組も実施している。今年度は特に産休・育休職員が重なり、その対応として保育士の負担を軽減するため、保育環境担当の職員を採用しており、採用に苦慮する中でも職員を気遣う想いが感じられる。手ぶら登園やコット導入等も職員の業務負担軽減に繋がっており、働きやすい職場づくりに向け、積極的に取り組んでいる。

##### 【地域との交流、地域貢献】

子どもが「地域の一員であること」を理解するための多くの機会を設けている。高齢者サロン訪問やおひさま市場での店員さんごっこ、市民センター展への作品出展、勤労感謝の日を前に地域の働く人（消防署・派出所・給食調理員等）へ感謝の気持ちを届ける等、保育方針に掲げられた人と人との繋がりを大切にした保育が行われている。また、民生児童委員を運営委員にし、園長や保護者会会長が地域運営会に参加するなど、地域にネットワークを張り巡らせ、地域の福祉ニーズの把握や地域の中で子どもと一緒に育てていく大切さを発信している。さらには、学校の「働く人の学ぶ会」の講師に保育士を派遣するなど学校教育への貢献も行われている。地域と一緒に、また地域を巻き込ん

で取り組む活動は、非常に評価が高い。

#### 【小1プロブレムへの対策】

近年の小1プロブレムの現状を考え、小学校へのスムーズな移行ができるよう小学校に働きかけ、協力を得ながら早期から取組を進めている。具体的には、卒園児の授業参観や小学校教諭との面談、小学校教諭と5歳児担任が連携のもと接続カリキュラムを作成し、1年生と5歳児が交流したり1歳児の授業を5歳児が体験受講、5歳児の学校見学や校長先生・教頭先生とのお話の会への参加などが行われており、こういった取組は保幼小連携の研修会で取り上げられたり、市の教育委員会から評価される取組となっている。

#### ◇改善を求められる点

##### 【事業計画の策定】

昨今の社会情勢が激しく変化する中で、スピーディに即実践の方針のもと取り組んでいるが、経営面においては中・長期的視点も必要であることから、中・長期事業計画さらには中・長期事業計画を踏まえた単年度の事業計画の策定が望まれる。今回の第三者評価や自己評価からの課題や人材確保・育成計画、地域との関わりや地域貢献などを盛り込んだ計画の策定に期待したい。組織的に取り組む体制が構築されており、職員の参画や意見の反映も期待されるところである。

##### 【人材確保に向けて効果的な取組の検討・実施】

人材確保は、様々な採用サイトへの登録、就職フェアへの参加、積極的な実習生の受入れによる育成校との連携強化、職員からの紹介制度等、法人本部と連携し取り組んでいるが、採用に繋がらない現状がある。SNS等を活用して園の日頃の取組や働きやすい職場環境、職員の生の声等、園が自慢できるポイントを広く積極的にアピールすること等も検討し、効果的な採用に繋がることに期待したい。

#### ⑥ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回3回目の受審となりましたが、理念をもとに職員が一丸となり改善を繰り返し、組織的、継続的に取り組んできたこと、そして大事にしてきたことをご理解いただき評価していただけたことがとても嬉しく、自園の強みとしての自信につながり、今後の保育園運営への取り組みの糧となりました。また受審にあたり、職員同士が園運営を総合的に見つめ直し、意見を出し合う事ができ様々な気づきの時間となりました。今後、改善計画を全職員が共通理解、認識し、更なる改善を図りより良い保育園づくり、そして職員にとっても働きがいのある職場づくりをめざしていきたいと思います。

#### ⑧ 第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。